

入賞 4名 (クオカード 500円)



題名 『雲海に浮かぶ天空の城』

雲海が出現して、雲海でお城が隠れてしまわないタイミングでしか撮れない画像で、よく撮影されました。

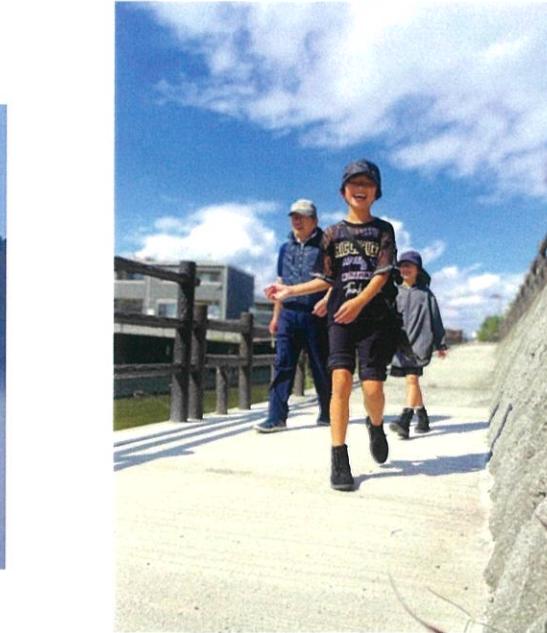
株式会社 宏和 飯田 千絵様



題名 『高所恐怖症克服へ 星のブランコ森の橋』

大阪府交野市は、七夕伝説の里で「星のブランコ」の愛称の吊り橋は標高 180 m、全長 280m、最大地上高 50m の木床板吊り橋で、人道吊り橋としては国内最大級の規模。これで高所恐怖症は克服、これから的人生の吊り橋も乗り越えて！

近畿ドキュメントサービス協同組合 中村 夢子様



題名 『笑顔満開！』

作者コメント「大好きなおじいちゃんとレッツウォーク！」元気よく楽しくウォーキングしている様子が伝わってきます。

マルワウェイク株式会社 石塚 小六様



題名 『神戸一望の旅』

作者コメント「布引ハイキングのゴールは足湯に限る」ウォーキングで疲れた足を皆で足湯につけて気持ちよさそうです。お疲れ様です。このあとビールで乾杯されたのでしょうか？

株式会社六甲商会 谷 亜依様

■選考と講評について、

この度は、「健康ウォーキングデイズ 2022」の一環として 2022 年度秋フォトコンテストを開催しましたところ、30 名 83 点と多数のご応募を賜り御礼申し上げます。選考は今回、当組合理事による投票で獲得した点数をもとに一次選考を行い、同点の場合はフォトコンテスト担当の関が各賞を決定いたしました。今回、ウォーキングのなかでの作品作りで絵になる景色を見つけるのが難しかったかと思いますが、力作も多く、長く続くコロナ禍の感染状況も下がり自粛ムードも少し収まり野外に出てのウォーキングを気持よく楽しまれている様子が伝わってくる作品が多くありました。尚、今回は一人 3 点までとしましたので、本コンテスト事業の趣旨が会員同士の交流を活性化するための場でありますので、より多くの方の応募作品を紹介するため、お一人につき一賞とさせて頂きました。

2022 年度秋

フォトコンテスト 結果発表

金賞 (クオカード 3千円)



富士フィルムビジネスイノベーション㈱ 坂尾康久様

題名 『下蒜山から見る伯耆大山』

作者コメント「蒜山三山縦走（本来は南アルプスの界斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳をテント泊で歩く予定でしたが、天気予報が悪く、行き先を変更）中蒜山の頂へ。急遽行先予定を変更されての蒜山への登山、晴天ではないようですが無事登頂され仲間と一緒に万歳、喜びが伝わってきます。万歳の手を上げる角度がみんなそろっていてチームワークの良さを感じます。コロナ禍が続くなか、外に出てウォーキングで健康増進して楽しんでもらおうと企画しました今回の「健康ウォーキングデイズ 2022！同時開催 フォトコンテスト」イベントにご参加、このような気持よく喜びいっぱいの写真をご応募頂きまして感謝です。金賞受賞おめでとうございます。」

銀賞 (クオカード2千円)



題名 『初秋の夕景シルエット』

作者コメント 初秋の夕景シルエット 影で季節を感じる情景でしたので、シャッターを切ってみました。

自然の中1日ウォーキングして終盤、疲れもいっぱいのなか、気持ちいい風景に出会えよかったです。

オーエムカラーコピー株式会社 阿部 将仁様

銀賞 (クオカード2千円)



題名 『西条祭り さーえんやー』

愛媛県西条市の「西条祭り」、江戸時代から300年続く伝統行事、沢山の屋台（だんじり、みこし、太鼓台）が出る。今年の10月に3年ぶりに行われ、熱気いっぱい「さーえんやー」の声も聞こえてきそうです。

株式会社イメージテック 山田裕次郎様

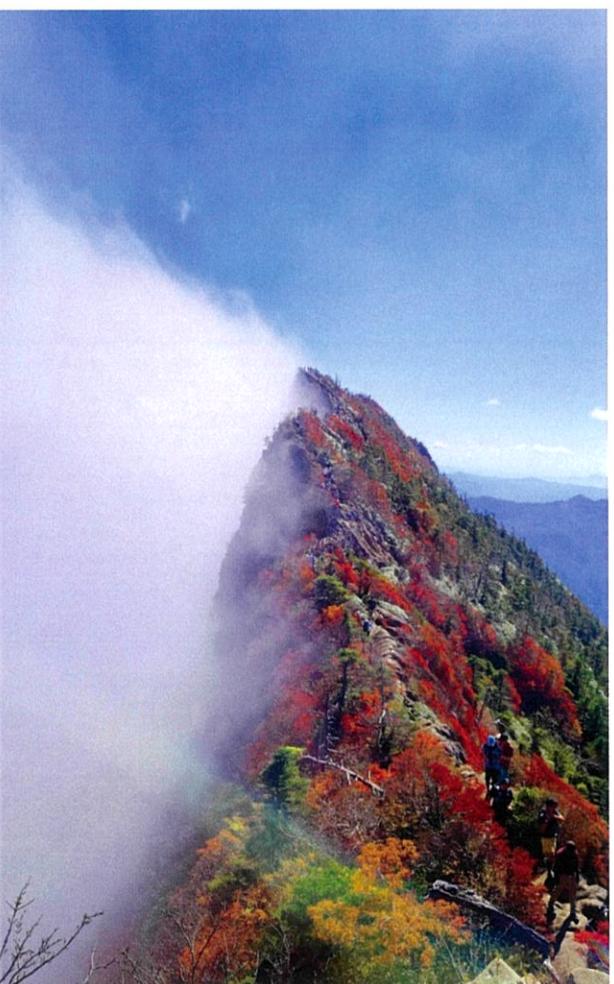
銅賞 (クオカード1千円)

題名 『鹿とはいポーズ』

家族4人での秋の古都奈良散策、小さいお子さんによりましても素敵な思い出になったことでしょう。お子さんは可愛く頭を傾げ、鹿はじっとしていて、どちらもポーズが決まっているナイスショットです。

石川特殊特急製本株式会社 植村 和徳様

銅賞 (クオカード1千円)

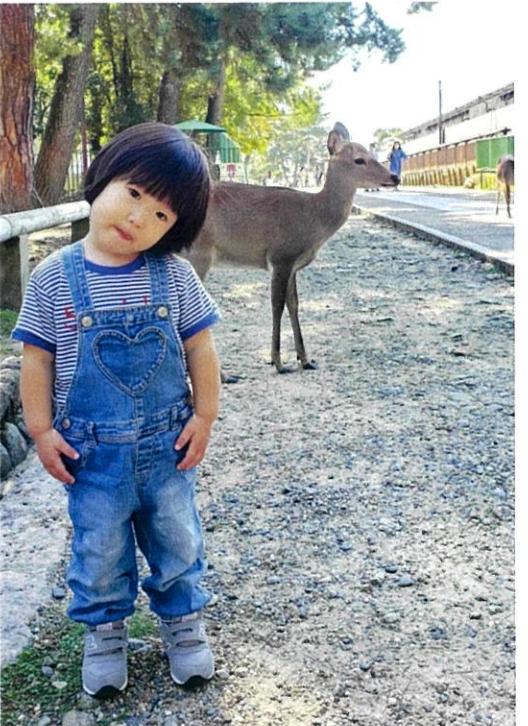


題名 『いざ登拝 西日本最高峰 石鎚山へ』

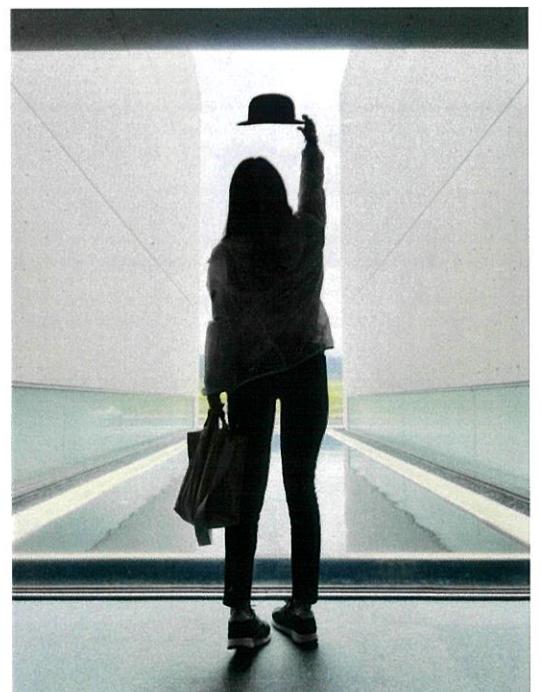
作者コメント フォトカードにしたい景色 「石鎚山！」

愛媛県西条市にある石鎚山は標高1,982mの西日本最高峰の山。「絶対にこの風景を撮影する」と、遠く迄行った作者の気合を強く感じさせられます。険しい岩山かと思いきや紅葉もところどころに！

近畿ドキュメントサービス協同組合 小野 恵美子様



銅賞 (クオカード1千円)



題名 『植田正治写真美術館の中の一コマ』

作者コメント 「植田正治写真美術館の中の一コマ」鳥取を中心に古き良き日本の風景や人物を撮影してた植田さんは今のこの世を撮影するとどんな写真を撮るのかと考えました。表情が見えないマスク姿よりも、一生懸命に生きようとする背中に人としての魅力を感じたのではないかと思います。」

帽子と手を伸ばす女性の構図、アート作品のようです。

(株) TD・K 橋本良平 様